

安全で安心な県づくり推進会議(平成28年3月23日)における委員からのご意見と県の対応等

資料 1

「安全・安心」及び「安全安心推進基本計画」に対する主なご意見	ご意見に対する現状・対応等	参考
1 がん検診の受診率が低い、自助…自分でできちんとやるというPRが大事。 (宍戸委員)	本計画においては、施策展開の方向の一つとして、「がんや心疾患等の生活習慣病を予防し、一人一人が健康な生活習慣を形成できるよう、運動、食生活、喫煙、各種健康診断などの情報提供や普及啓発、環境整備を図ります。」としています。ご指摘のあったがんの早期発見のためにはがん検診が有効であり、指標としてがん検診の受診率を盛り込む方向で検討します。	がん検診受診率【H25年度実績】 ・胃がん 26.6% ・肺がん 36.0% ・大腸がん 31.8% ・乳がん 43.3% ・子宮頸がん 41.0%
2 (放射線による差別等がまだある。)計画の10の視点に教育が入っていない、人づくりが大事。 (番場委員)	安全・安心の取組を進める上で、教育や人づくりの視点は極めて重要であり、基本方針(基本的視点)の中に、教育や人づくりなどの項目を盛り込む方向で検討します。	
3 (放射線と食について、)自分たちで学んで自分たちで判断する力を持つことが重要。 (田崎委員)	本計画において食品中の放射性物質対策への取組として、「食品中の放射性物質対策に伴う情報共有とリスクコミュニケーションの促進」などの項目をあげていますが、ご指摘を踏まえ、リスクコミュニケーションの一環として自分たちで学んで判断する力を持つことができるような観点も加え、本計画に位置付ける方向で検討します。	食品と放射能に関するリスクコミュニケーションの実施件数 (H25年度～H27年6月までの累計) 206回
4 子どもたちには自分の体に入るもの(食べ物)、自分で作っていくものをしっかり知る機会をもっと持ってもらいたい。 (舟木委員)	本計画において食の安全に関する情報提供とリスクコミュニケーションの促進として、「食育の推進」などの項目をあげていますが、ご指摘を踏まえ、子どもたちへの学ぶ機会をつくる観点も加え、本計画に盛り込む方向で検討します。	
5 防災士の高齢化、資格をとっても一緒に活動している人が非常に少ない。 (藁谷委員)	地域の防災力を高める上で、防災士による地域・職場での活動が期待されていることから、防災活動への参加を推進するための方向性についても本計画に盛り込む方向で検討します。	
6 AEDを使える人を指標に入れてもよいのではないか。 (宍戸委員、吉岡会長)	県内各消防本部で実施している救命講習の受講者数などに関する指標の追加などを検討します。	

「安全・安心」及び「県安全安心推進基本計画」に対する主なご意見	ご意見に対する現状・対応等	
7 医療、介護などの福祉に関する人材の確保、人づくりも重要。 (宍戸委員、松本委員)	医師の確保については、大学卒業後、県内の病院に勤務することにより返還が免除される修学資金の運営や県立医科大学における地域枠入試を設けています。 看護師の確保についても県内の医療施設等で業務に従事することにより返還が免除される修学資金の運営や就業情報の提供など人材確保に向けてあらゆる取組をしています。 また、県では保健医療従事者の安定的な養成と確保を図るため、福島県立医科大学に、理学療法士等を養成する新学部を2021年に設置する予定としています。 介護職の人材確保については、入職後3年未満の離職が多いことから、福祉・介護人材の定着を図るため、キャリアパス制度の構築、新人職員への研修事業、人材定着の取組を行う法人への支援などを実施しているほか、潜在的有資格者の再就職支援事業、福祉・介護人材マッチング支援事業など人材定着に向けて、様々な事業を多角的に行っています。	医療施設従事医師数(人口10万人対) 188.8人(H26) 産婦人科・産科医師数(出生千対) 18.7人(H24) 病院勤務の常勤小児科医師数(実数) 106人(H24) 就業看護職員数(人口10万人対) 1252.1人(H26)
8 安全と安心が違う、心の部分(安心の部分)をどう考えるか。 (渡辺委員、吉岡会長)	安全が安心に必ず結びつくものではありませんが、客観的データなどを示していくことなどにより、安全と安心を近づけるような取組が必要だと考えます。本県に対する風評が今なお続いているとおりに難しい問題ですが、本計画への反映について検討します。	
9 地域性の違い(市街地・農村部／浜・中・会津)をどう理解し、表現するか。 (渡辺委員、番場委員)	本計画は県全体を対象としているため、全ての項目において地域性の違いを表すことは難しいと考えますが、個別施策の推進にあたっては、地域性の違いへの配慮も不可欠であるため、その視点を基本方針などに盛り込んでいきたいと思っています。	
10 計画の中に知らない言葉が結構多い、難しい。 (舟木委員)	用語の解説を加える他、指標も分かりやすいものにするなど工夫します。	
11 障がい者に対しても、差別とか人権が非常に侵害されている部分がある。障がい者に対する差別に関する法律の合理的配慮を安全安心県づくりにおいてどう考えるか。 (松本委員)	県民が安全に「安心」して暮らすためには、障がいを持つ方々などへの差別や偏見のない地域社会を築いていくことが重要であることから、基本方針などで改めて盛り込んでいきたいと思っています。	